



文部科学省 情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業

分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク

# 学生向けアンケート調査結果【最終版】

2013年4月

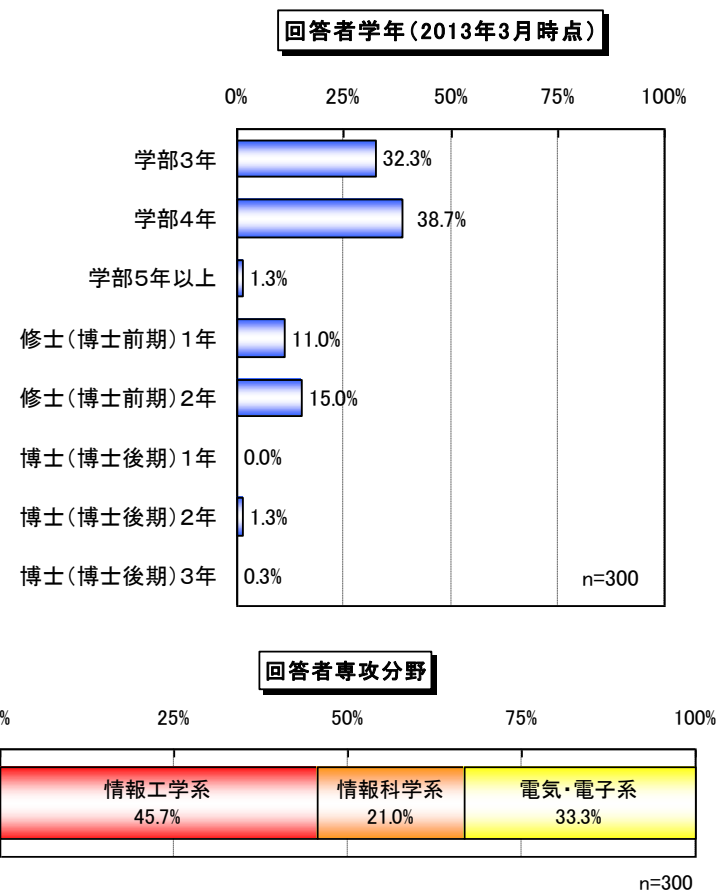


Education Network for Practical Information Technologies

## ■ 学生向けアンケート調査の概要

学生向けアンケート調査の概要は以下のとおりである。今回は、情報系または電気・電子系を専攻し、enPiTで実施する教育の受講対象者として想定される学部3年生以上を対象に、WEBアンケート調査を実施した。

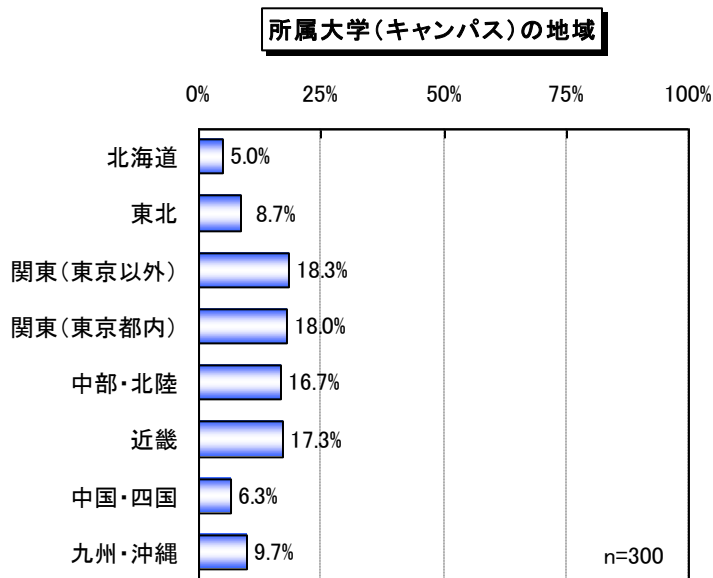
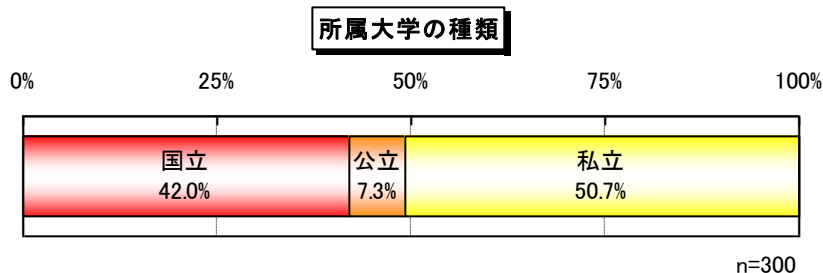
調査対象	情報系または電気・電子系を専攻する学部3年生以上の学生（300名）
調査期間	2013年3月上旬
調査方法	WEB アンケート調査 (WEB 調査会社の登録モニターを利用)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践教育に対する興味</li> <li>現在のカリキュラムでは十分に学べないと感じている内容</li> <li>enPiT 事業の認知度</li> <li>enPiT で実施される講座に対する興味</li> <li>enPiT で実施される講座を受講する際の課題</li> <li>enPiT で実施される遠隔地の講座に参加する際の交通費負担の限度額</li> </ul>



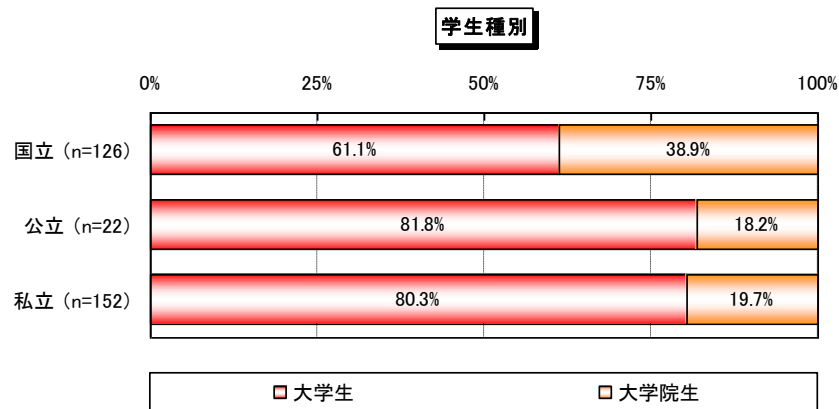
※ 本調査に関する業務の一部は、みずほ情報総研株式会社へ委託の上実施

## ■ 回答者の所属大学

アンケートに回答した学生が所属する大学の国公立分布および地域分布は、以下のとおりであった。



- 国公立大学に所属する学生と私立大学に所属する学生が、ほぼ半数ずつ回答。
- 所属大学の地域分布は左図のとおりとなっており、全国の学生からの回答が収集された。
- 国公立別別に学部生・大学院生の割合を見ると、国立の大学院生の割合がやや高めている。



## ■ 調査結果のポイント

POINT1

enPiT 事業への学生の関心は高い



p.13

7割を超える学生が enPiT 事業に興味を持っている。

POINT2

学生のニーズは基礎基本にあり



p.15

学生が重視する実践教育のポイントの最上位は「基礎からきちんと指導してもらいたい」。

POINT3

東京開催の講座にニーズが集中



p.16

東京開催の講座は全国からの参加意欲が高い。(詳細は p.19~p.23参照)

POINT4

学生の交通費負担限度額は5,000円

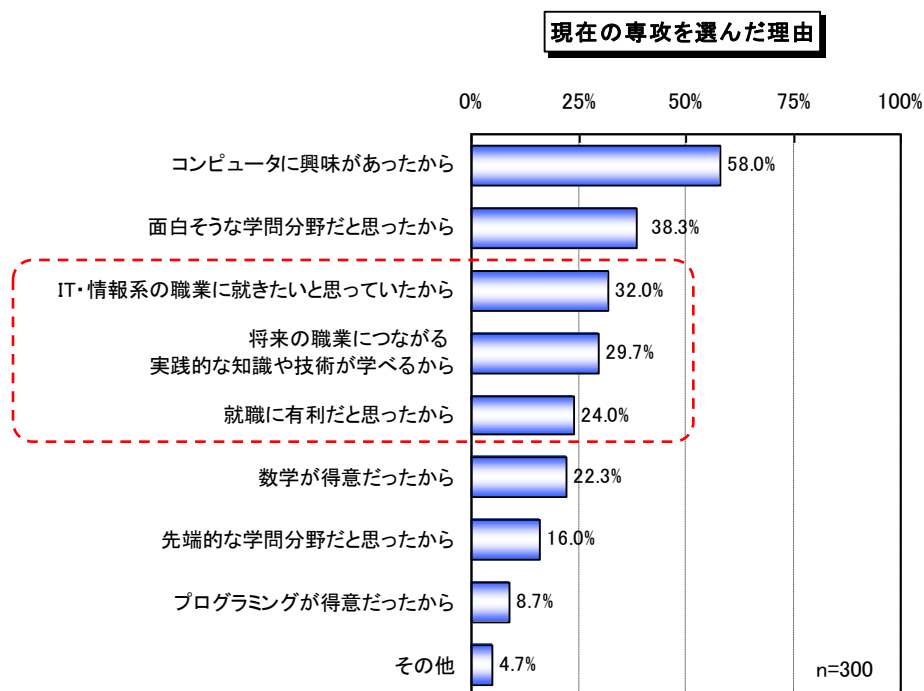


p.24

4分の3の学生が、参加時の交通費の自己負担限度額を5,000円未満と回答。

## ■ 現在の専攻を選んだ理由

今回の調査では、専攻選択時に学生がどの程度将来の実務を意識しているのかを把握するために、現在の専攻を選んだ理由を尋ねた(複数回答可)。

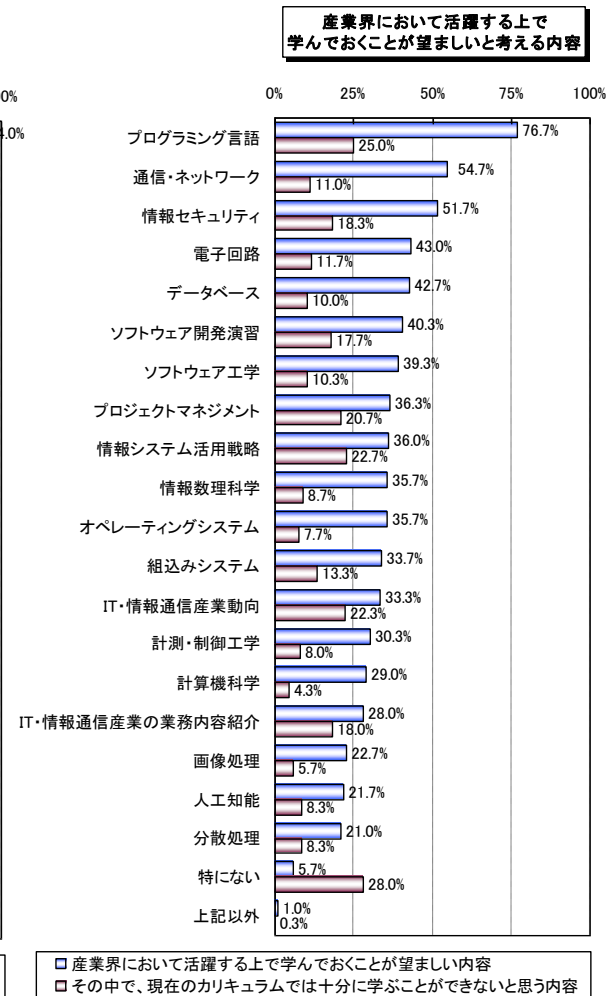
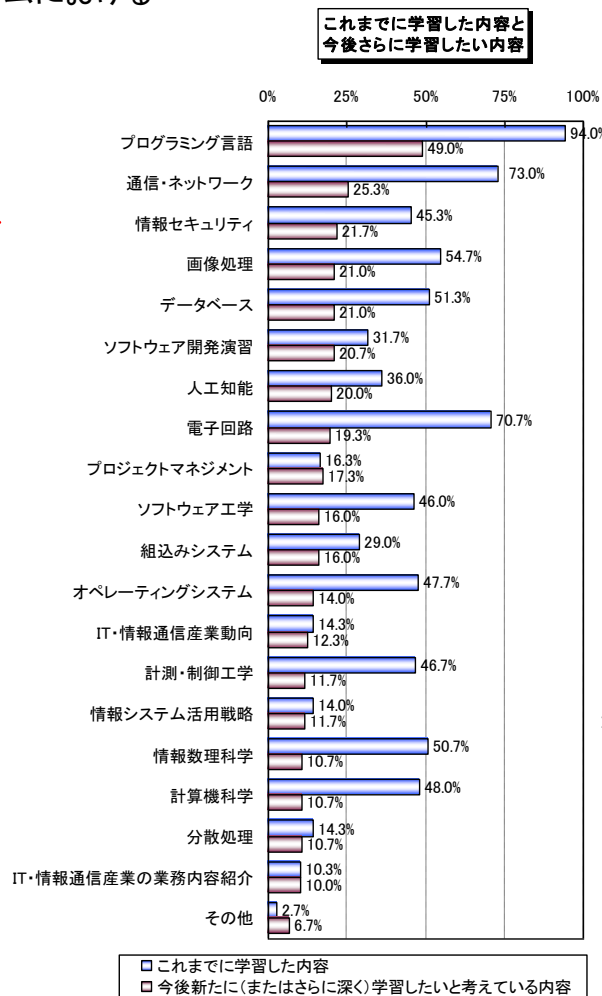


- 将来の職業や就職を意識した選択肢も比較的上位にあがっており、**現在の学生が、ある程度、将来の職業を意識して、情報系分野を選択している**ことがうかがえる。  
(⇒よって、学生の中にも実践教育に対するニーズが、ある程度は存在するのではないかと推測される。)

## ■ 大学・大学院における学習内容について

右図は、回答者の大学・大学院のカリキュラムにおける学習内容について尋ねたもの。

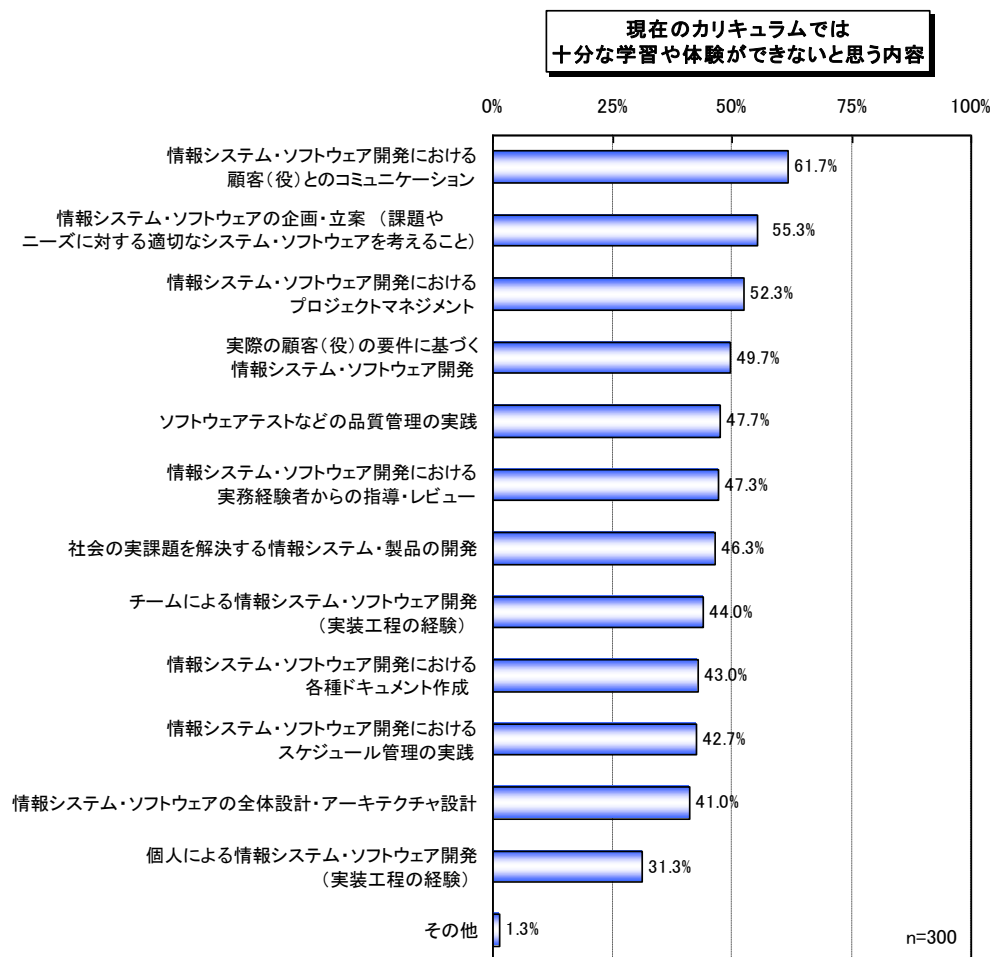
- 「今後さらに学習したい内容」としては、半数近くの学生が「プログラミング言語」をあげているほか、「通信・ネットワーク」、「情報セキュリティ」、「画像処理」、「データベース」、「ソフトウェア開発演習」などが上位となっている。
- 「産業界において活躍する上で学んでおくことが望ましい内容」としては、「プログラミング言語」のほかに、「情報セキュリティ」や「ソフトウェア開発演習」、「ソフトウェア工学」、「プロジェクトマネジメント」、「情報システム活用戦略」などがあげられている。
- 「産業界において活躍する上で学んでおくことが望ましい内容のうち、現在のカリキュラムでは十分に学べないと思う内容」としては、「プログラミング言語」のほか、「情報システム活用戦略」や「IT・情報通信産業動向」、「プロジェクトマネジメント」などが2割を超えている。



## ■ 現在のカリキュラムでは得られない体験

下図は、現在の大学・大学院のカリキュラムにおいて、十分な学習・体験ができない内容について尋ねたもの。

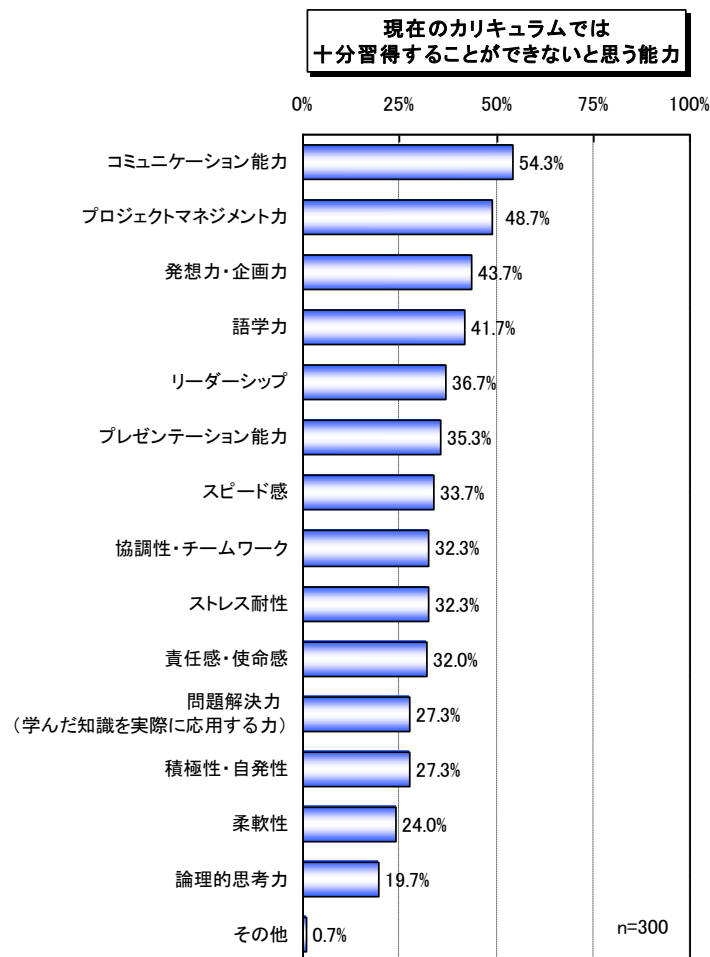
- まずは、**全体的にいずれの選択肢も半数近くの回答を得ている**点が注目される。右図の選択肢に示されたような体験は、現在の大学・大学院のカリキュラムにおいては難しいものと考えられる。
- 最も回答の少ない「個人による情報システム・ソフトウェア開発(実装工程の経験)」についても、3割近くの学生が、「現在のカリキュラムでは十分な学習や体験ができない」と感じている。
- 最も回答が多いのは「情報システム・ソフトウェア開発における顧客(役)とのコミュニケーション」となっており、**顧客とのやり取りのような体験は現状では難しいと多くの学生が感じている**ことがうかがえる。
- その他に、「**情報システム・ソフトウェアの企画・立案**」や「**情報システム・ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント**」なども、半数を超える回答が寄せられている。



## ■ 現在のカリキュラムでは習得できない能力

下図は、現在の大学・大学院のカリキュラムにおいて、十分に習得できない能力について尋ねたもの。

- 「**コミュニケーション能力**」が最上位となり、唯一半数を超える回答となっている。学生も、コミュニケーション能力の重要性やその習得の難しさを実感していることがうかがわれる。
- 次に「**プロジェクトマネジメント力**」、「**発想力・企画力**」が続いている。
- 上記の能力と比較すると、「**協調性・チームワーク**」や「**問題解決力**」に対しては、学生は現状のカリキュラムにそれほど強い不足感を感じているわけではないといえる。

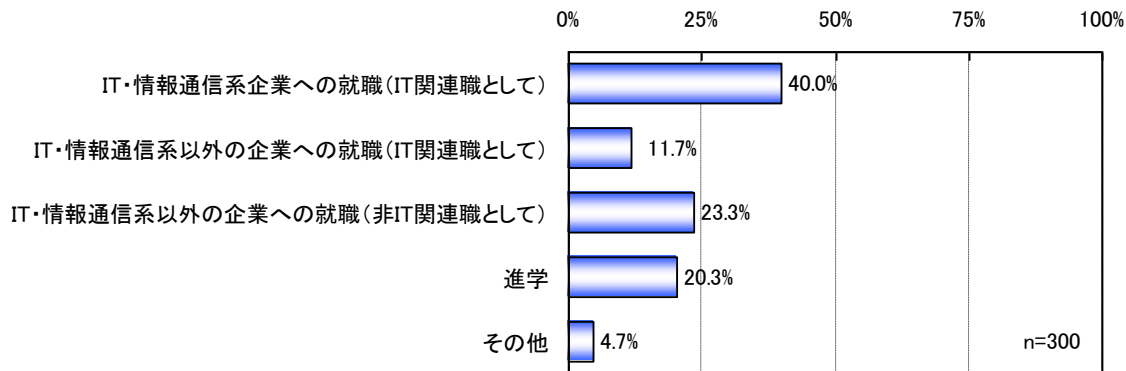


## ■ 卒業後の進路とその理由

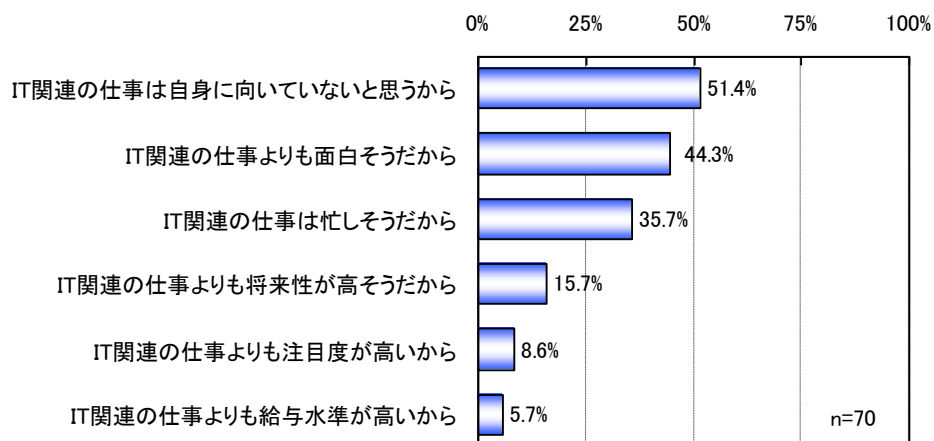
右図は、学生に卒業後の希望進路を尋ねたもの。  
また、「非IT関連職」を選んだ学生には、その理由を尋ねた。

- 学生の半数(約5割)程度は「IT関連職」としての就職を考えているが、**4分の1近くの学生は、「非IT関連職」としての就職を希望している。**
- 「非IT関連職」を選択した理由としては、「IT関連の仕事は自身に向いていないと思うから」が最多となっている。

卒業後の希望進路



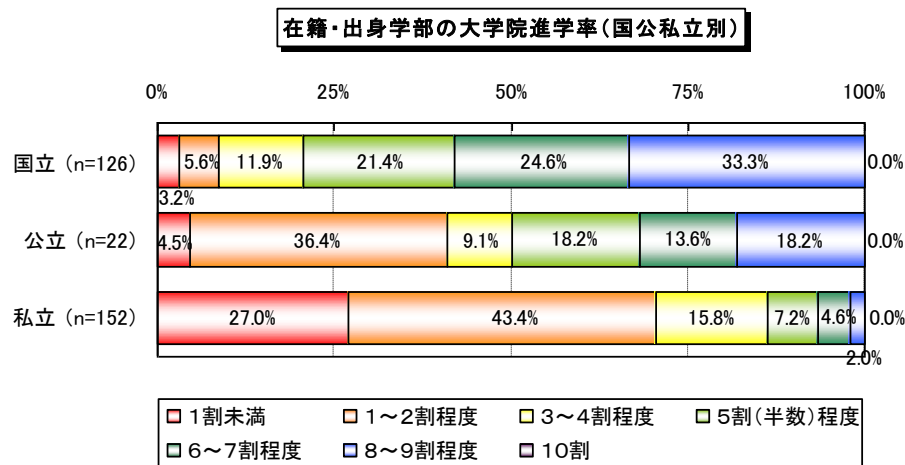
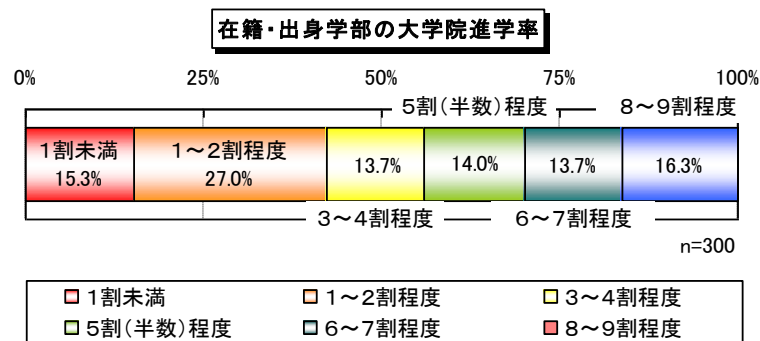
「非IT関連職」を選んだ理由



## ■ 回答者の所属大学の大学院進学率（参考）

今回の調査では、参考までに、回答者の所属・出身学部における大学院進学率を尋ねた。

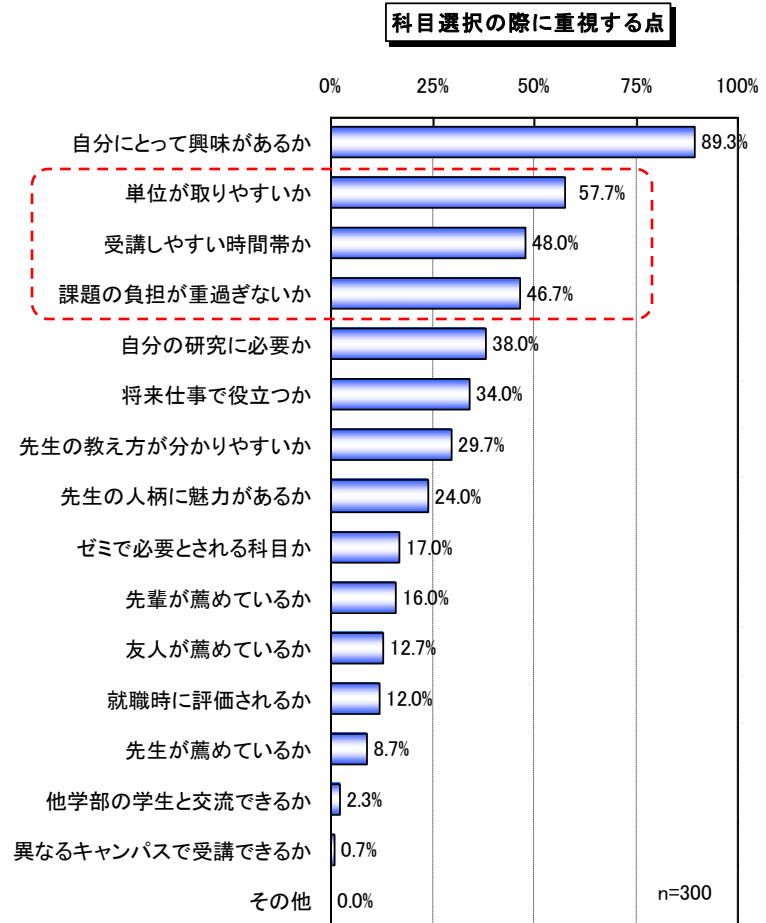
- 全体では、「1割未満」の大学から「8～9割程度」の大学まで、進学率は大きく異なっているが、右下の国公立別の大学院進学率を見ると、**国公立大学では、私立大学よりも、大学院進学率が高くなる傾向にある**ことが読み取れる。



## ■ 科目選択の際に重視する点

右図は、選択可能な科目の選択の際に重視する点を尋ねたもの。

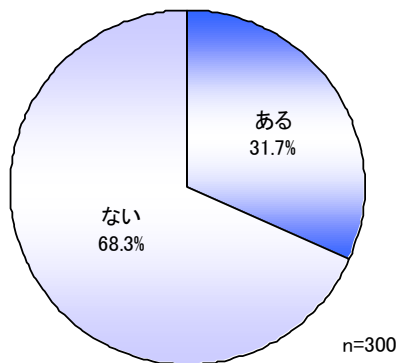
- 「自分にとって興味があるか」という点が、当然ながら第1位となっている。
- 興味の有無に続く**第2位から第4位は、どちらかと言えば、学生にとっての便宜的な理由となっている点**が注目される。「単位が取りやすいか」、「受講しやすい時間帯か」、「課題の負担が重過ぎないか」などが半数前後の回答となっている。



## ■ システム開発演習の履修経験

学習した経験がある内容とは別に、「システム開発演習」の履修経験の有無を尋ねた。

システム開発演習の履修経験

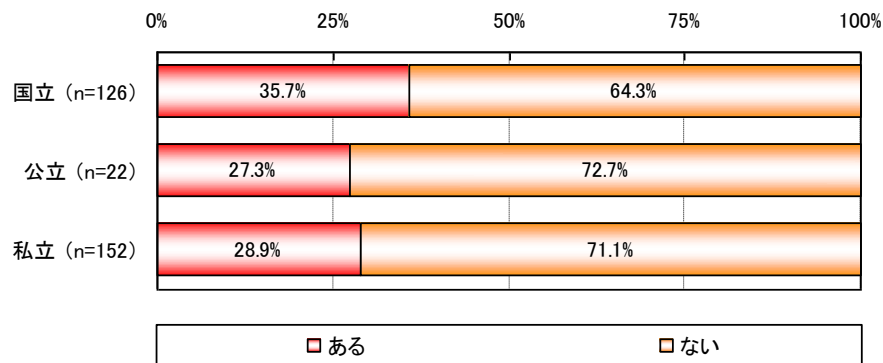


- 「システム開発演習」の履修経験が「ある」と回答した学生は31.7%であり、これは、p.5で「ソフトウェア開発演習」を学習したという回答(31.7%)と一致している。

⇒ 7割近くの学生は、システムを開発する演習を履修した経験がないという状況。

- 「システム開発演習」の履修経験を、国公立別に見ると、国立の方がわずかに「ある」と答えた割合が高くなっている。

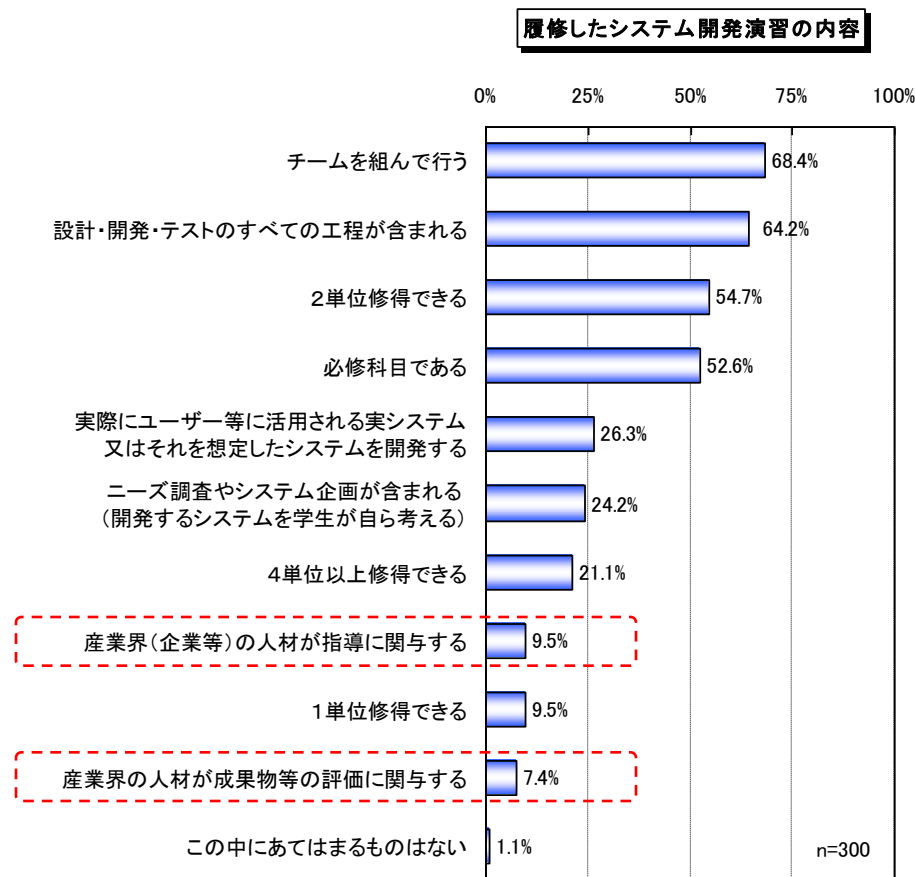
システム開発演習の履修経験



## ■ 履修したシステム開発演習の内容

前頁の設問において、システム開発演習の履修経験が「ある」と回答した学生に対して、履修したシステム開発演習の内容を尋ねた。

- システム開発演習の履修経験のある学生のうち、7割近くの学生が「チームを組んで行う」、「設計・開発・テストのすべての工程が含まれる」にあてはまるシステム開発演習であったと答えている。
- 「産業界の人材が指導に関与する」、「産業界の人材が成果物等の評価に関与する」という条件にあてはまるのは1割以下となっており、**産学連携によるシステム開発演習は、現状では希少な取組となっている実態**がうかがえる。

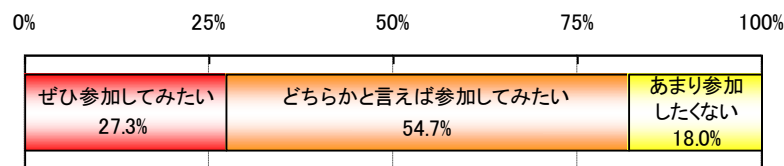


## ■ 実践教育・enPiT 講座に対する学生の参加意向

実践教育やenPiTで実施される教育(以下「enPiT講座」と表記)への学生の参加意向などを尋ねた結果は、以下のとおり。

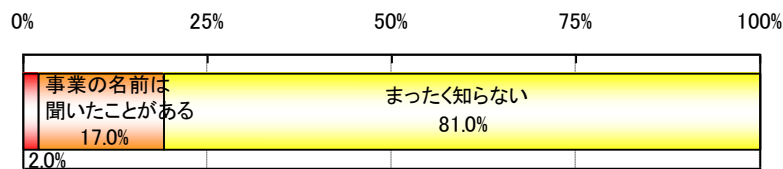
- enPiT事業の固有名称を示さず、IT関連のトップ企業の講師が指導するシステム開発演習に参加してみたいかを尋ねた結果、「ぜひ参加してみたい」、「どちらかと言えば参加してみたい」をあわせて8割を超えており、**実践教育に対する学生の興味が非常に強い**ことが読み取れる。(右図)

IT関連のトップ企業の講師が指導するプロジェクト形式のシステム開発演習に参加してみたいか



n=300

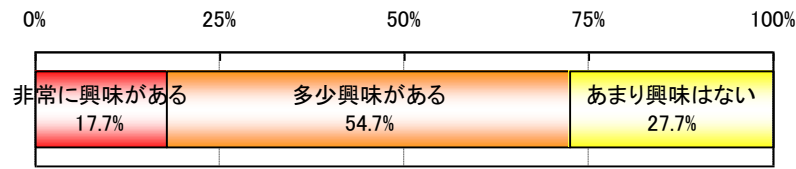
「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」についての認知度



事業の内容をある程度知っている

n=300

「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」で実施される教育の受講に対する興味



n=300

注目!

- **enPiT事業の認知度**については、「事業の内容をある程度知っている」、「事業の名前は聞いたことがある」をあわせると**2割程度**にのぼっている。

- 最新技術を扱い、トップレベルの企業講師の指導が受けられる実践教育(以下、enPiT講座)の受講に対する興味は全体的に高く、「非常に興味がある」、「多少興味がある」をあわせると**7割を超える学生が興味があると回答している。**

# enPiT 講座に対する学生の参加意向 (参考: 詳細分析)

前頁のenPiT講座に対する興味についての設問を、様々な属性別に集計した結果を示す。

- enPiT講座に対しては、**私立の学生よりも国立の学生**がより強い興味を持っている。
- 地域別にみると、**東京以外の関東圏のほか、九州・沖縄地域**の学生が他の地域よりも強い関心を示している。

全体		n=	(300)	17.7%	54.7%	27.7%
(大学の種類)	国立	(126)	24.6%	51.6%	23.8%	
	公立	(22)	4.5%	63.6%	31.8%	
	私立	(152)	13.8%	55.9%	30.3%	
	全体	(300)	17.7%	54.7%	27.7%	

□ 非常に興味がある □ 多少興味がある □ あまり興味はない

全体		n=	(300)	17.7%	54.7%	27.7%
所属大学(キャンパス)の所在地	北海道	(15)	6.7%	60.0%	33.3%	
	東北	(26)	11.5%	50.0%	38.5%	
	関東(東京以外)	(55)	25.5%	52.7%	21.8%	
	関東(東京都内)	(54)	16.7%	61.1%	22.2%	
	中部・北陸	(50)	12.0%	50.0%	38.0%	
	近畿	(52)	17.3%	53.8%	28.8%	
	中国・四国	(19)	21.1%	52.6%	26.3%	
	九州・沖縄	(29)	24.1%	58.6%	17.2%	
	全体	(300)	17.7%	54.7%	27.7%	

□ 非常に興味がある □ 多少興味がある □ あまり興味はない

全体		n=	(300)	17.7%	54.7%	27.7%
全体/大学院進学率	1割未満	(46)	13.0%	52.2%	34.8%	
	1~2割程度	(81)	14.8%	53.1%	32.1%	
	3~4割程度	(41)	17.1%	61.0%	22.0%	
	5割(半数)程度	(42)	21.4%	57.1%	21.4%	
	6~7割程度	(41)	24.4%	51.2%	24.4%	
	8~9割程度	(49)	18.4%	55.1%	26.5%	
10割	(0)					
国立全体		(126)	24.6%	51.6%	23.8%	
国立/大学院進学率	1割未満	(4)	50.0%	25.0%	25.0%	
	1~2割程度	(7)	28.6%	57.1%	14.3%	
	3~4割程度	(15)	26.7%	53.3%	20.0%	
	5割(半数)程度	(27)	22.2%	55.6%	22.2%	
	6~7割程度	(31)	25.8%	45.2%	29.0%	
	8~9割程度	(42)	21.4%	54.8%	23.8%	
10割	(0)					
公立全体		(22)	4.5%	63.6%	31.8%	
公立/大学院進学率	1割未満	(1)	0.0%	100.0%	0.0%	
	1~2割程度	(8)	0.0%	62.5%	37.5%	
	3~4割程度	(2)	0.0%	50.0%	50.0%	
	5割(半数)程度	(4)	25.0%	25.0%	50.0%	
	6~7割程度	(3)	0.0%	100.0%	0.0%	
	8~9割程度	(4)	0.0%	75.0%	25.0%	
10割	(0)					
私立全体		(152)	13.8%	55.9%	30.3%	
私立/大学院進学率	1割未満	(41)	9.8%	53.7%	36.6%	
	1~2割程度	(66)	15.2%	51.5%	33.3%	
	3~4割程度	(24)	12.5%	66.7%	20.8%	
	5割(半数)程度	(11)	18.2%	72.7%	9.1%	
	6~7割程度	(7)	28.6%	57.1%	14.3%	
	8~9割程度	(3)	0.0%	33.3%	66.7%	
10割	(0)					

□ 非常に興味がある □ 多少興味がある □ あまり興味はない

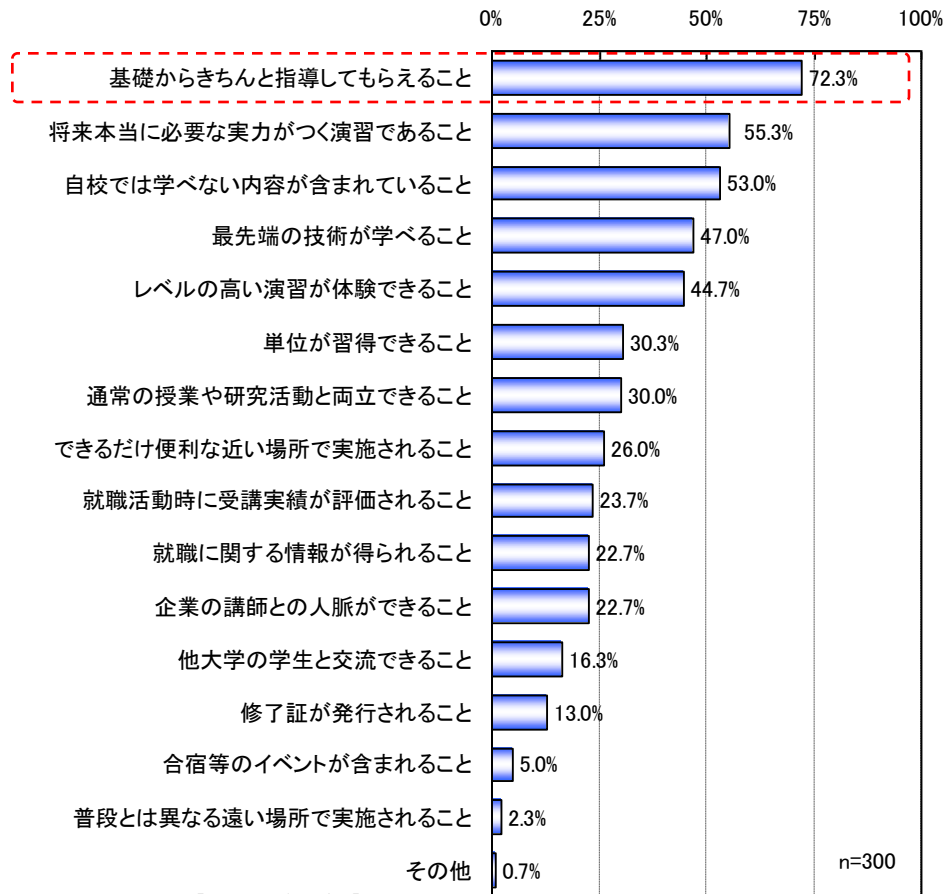
## enPiT講座に対して学生が重視するポイント



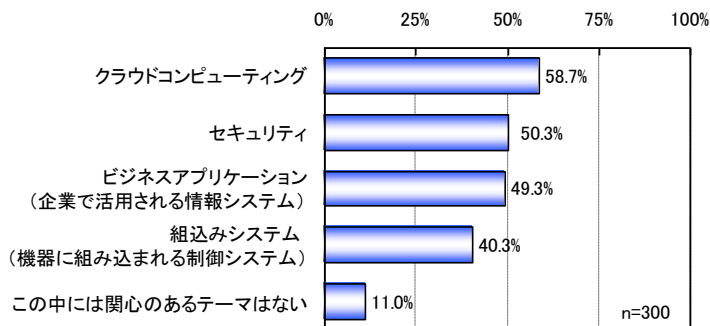
enPiTで実施される実践教育に対して、学生が重視するポイントを尋ねたところ、右下図のとおりとなった。

- 学生が重視するポイントの**最上位は「基礎からきちんと指導してもらえること」と**なっており、これが他の選択肢を引き離して最上位となっている。
- その他には、「将来本当に必要な実力がつく演習であること」、「自校では学べない内容が含まれていること」、「最先端の技術が学べること」、「レベルの高い演習が体験できること」などの回答が続いている。
- 興味のあるテーマとしては、「**クラウドコンピューティング**」が**最上位**となった。

実践教育に対して重視するポイント



実践教育として興味のあるテーマ



【その他回答(抜粋)】

- ・ 基礎は自分で学べるしわからないことがあったら聞けば良いので、レベルの高いものを望む
- ・ 費用がかからないこと

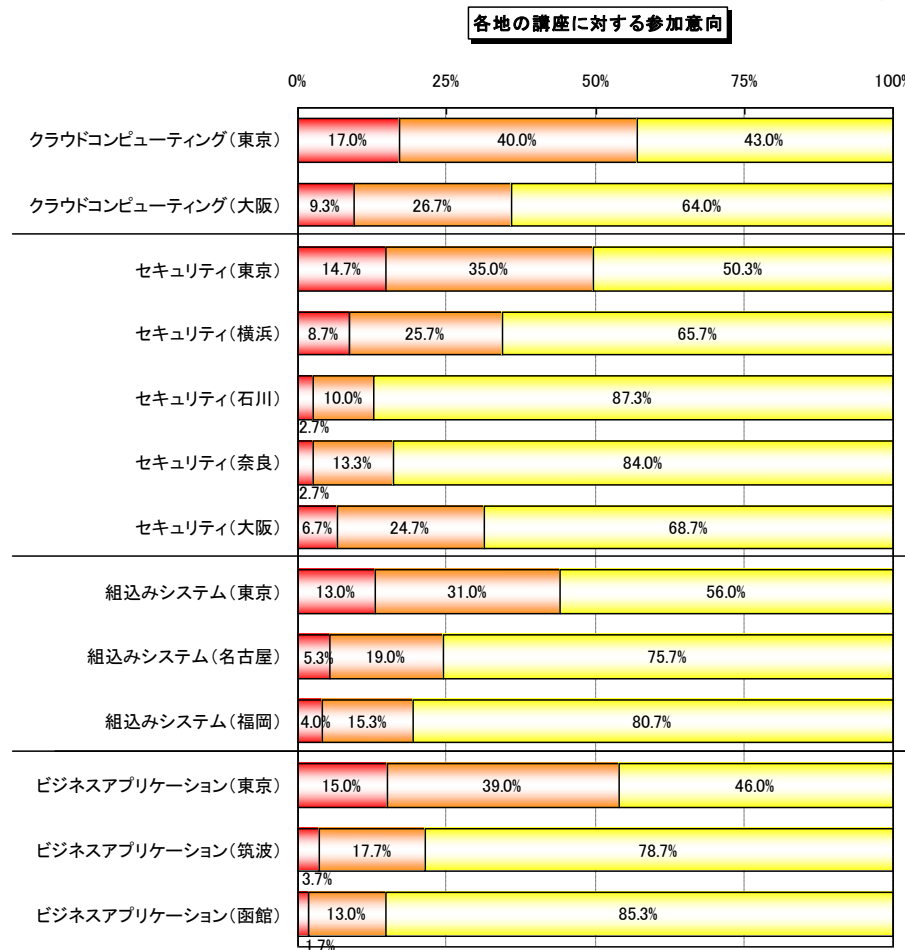
## ■ 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向

注目!

全国各地で開催される enPiT 講座に対する学生の参加意向は、講座の開催地によって大きく異なる可能性がある。よって、enPiT 講座自体に対する参加意向を尋ねた後に、開催地別の参加意向も尋ねた。

(※本設問は、各講座では2単位程度が認定され、交通費や受講料、宿泊費などの自己負担は不要とする、という前提で尋ねている。)

- テーマ×開催地別に参加意向を尋ねたところ、**東京で開催される「クラウドコンピューティング」講座と「ビジネスアプリケーション」講座**については、半数を超える回答者が「ぜひ検討してみたい」、「検討してみてもよい」と前向きに回答。
- その他、「セキュリティ」と「組込みシステム」も含めて、**東京で開催される講座に対する参加意向は総じて高い傾向が見られる。**
- 続いて、大阪、横浜で開催される講座も参加意向が高く、**開催地は今回学生が参加するにあたっての大きなファクターとなっている**可能性がうかがえる。

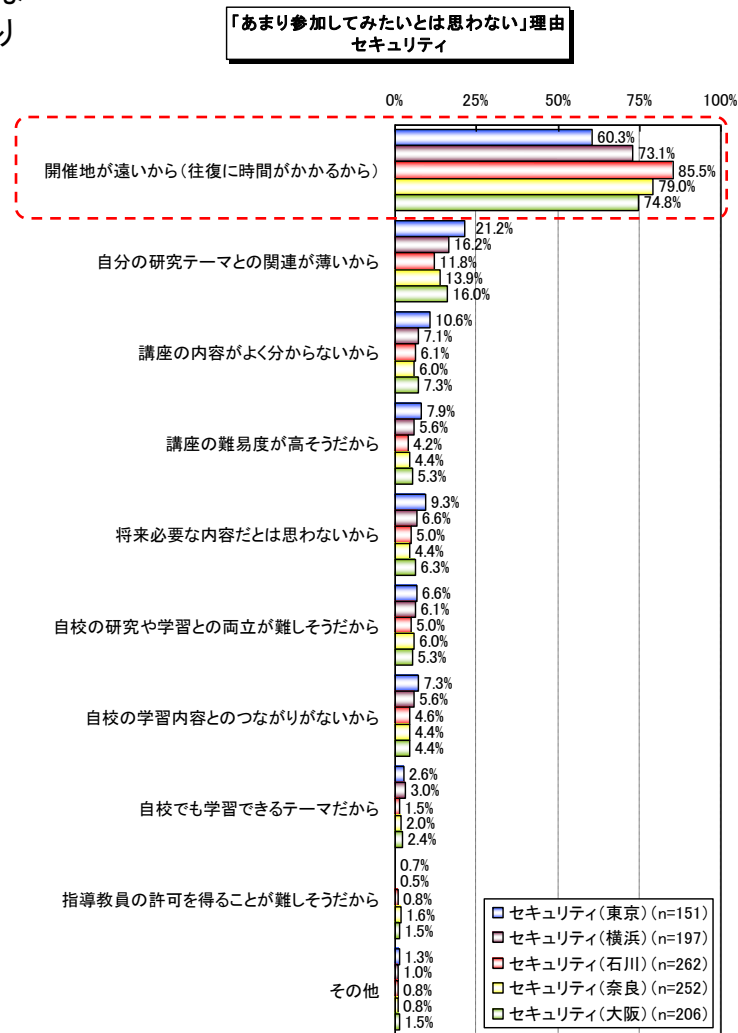
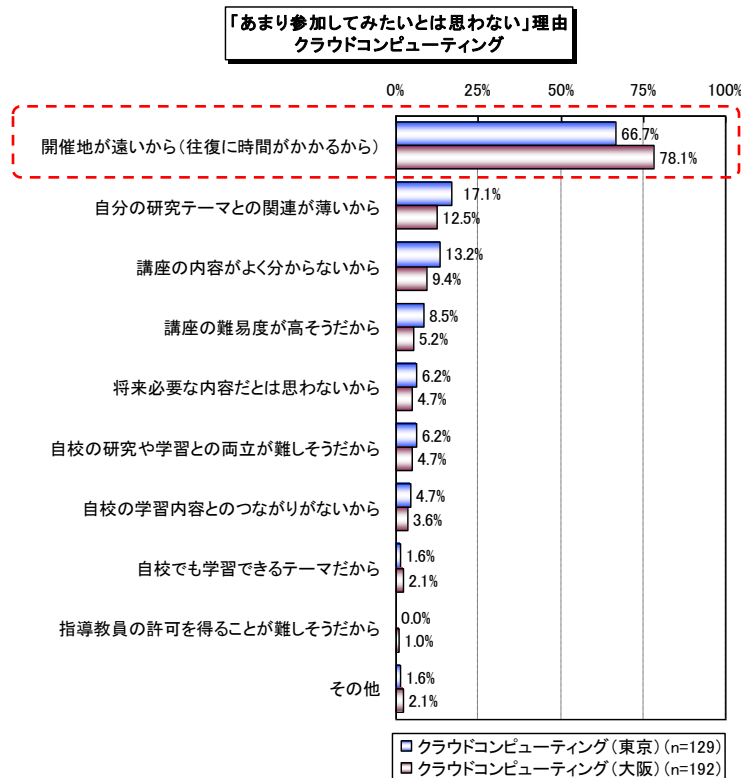


□ ぜひ参加してみたい □ 検討してみてもよい □ あまり参加してみたいとは思わない

## ■ 各開催地のenPiT講座に「参加してみたいとは思わない」理由①

前頁の設問において、各開催地のenPiT講座に「参加してみたいとは思わない」と回答した学生に対して、その理由を尋ねたところ、結果は以下のとおりとなった。

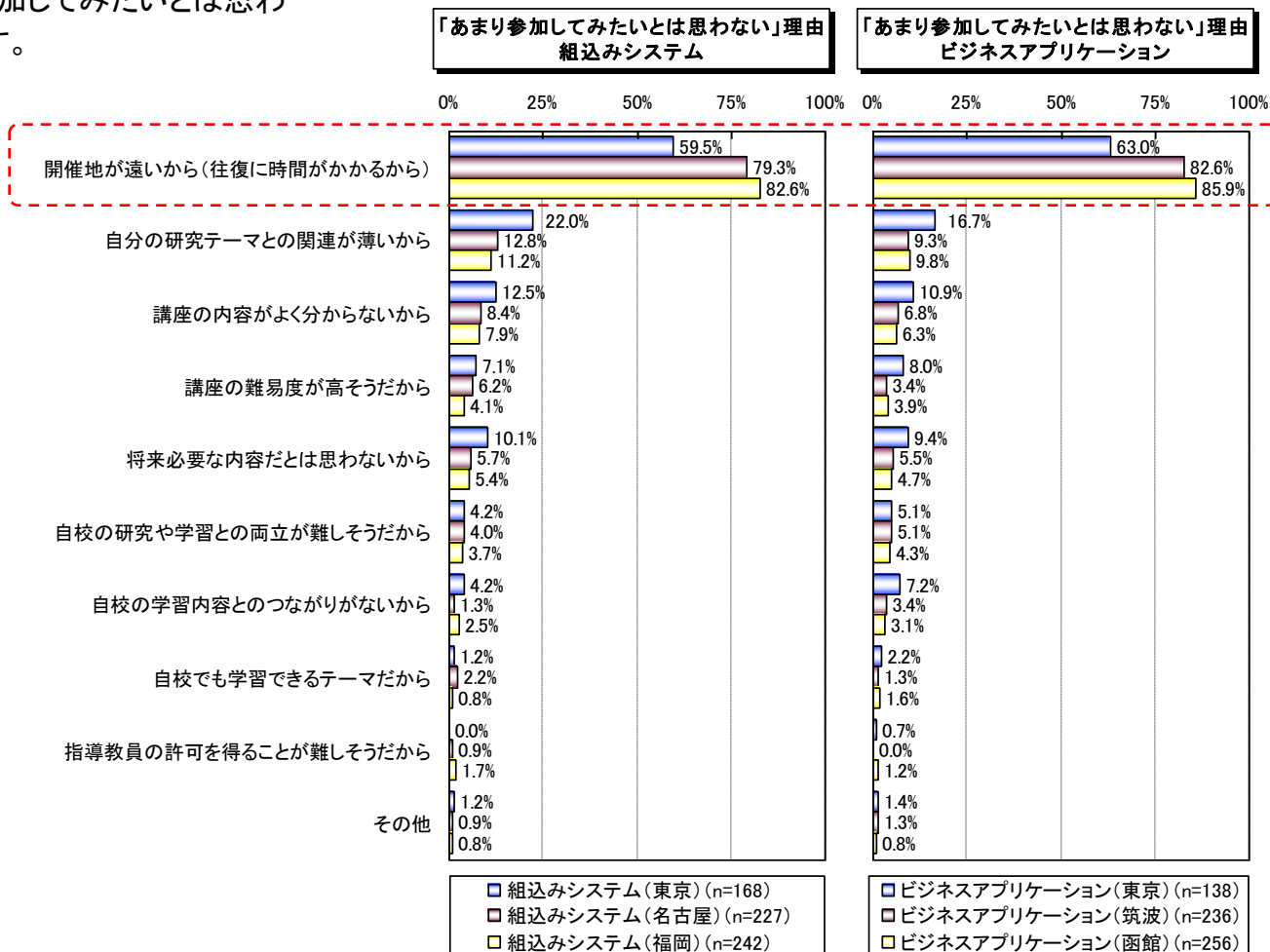
- 参加してみたいと思わない理由の最上位は、いずれも「開催地が遠いから」が群を抜いて高くなっている。



## ■ 各開催地のenPiT講座に「参加してみたいとは思わない」理由②

続いて、「組込みシステム」と「ビジネスアプリケーション」の2テーマについても、「参加してみたいとは思わない」理由を尋ねた結果を示す。

- 前頁の2テーマと同じように、「参加してみたいとは思わない」理由の最上位は、いずれも「開催地が遠いから」が群を抜いて高くなっている。



## ■ 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向(地域別)① ~ クラウドコンピューティング

続いて、各開催地のenPiT講座に対する参加意向を、学生の所属大学地域別に集計した結果を示す。本頁に示したのは、「クラウドコンピューティング」に関する2講座を比較した結果である。

- 「クラウドコンピューティング」の東京開催講座と大阪開催講座を比較すると、東京開催の講座については、**近畿地方を除くほとんどの地域の学生が一定の参加意向を持っていることが分かる。**
- 特に**東京開催の講座については、東京以外の関東圏の学生の参加意向が非常に高くなっている**点が注目される。
- 大阪開催の講座については、近畿地方から中国・四国、九州・沖縄地方の学生の参加意向が他の地方よりも高めている。**大阪開催の場合は、近畿以西の地域の学生が主な参加層になることが予想される。**

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【クラウドコンピューティング (東京)】

		n=	%		
全体		(300)	17.0%	40.0%	43.0%
所属大学 (キャンパス) の 所在地域	北海道	(15)	13.3%	53.3%	33.3%
	東北	(26)	15.4%	42.3%	42.3%
	関東(東京以外)	(55)	38.2%	43.6%	18.2%
	関東(東京都内)	(54)	24.1%	55.6%	20.4%
	中部・北陸	(50)	10.0%	40.0%	50.0%
	近畿	(52)	3.8%	11.5%	84.6%
	中国・四国	(19)	10.5%	47.4%	42.1%
	九州・沖縄	(29)	6.9%	41.4%	51.7%
				<input type="checkbox"/> ぜひ参加してみたい	<input type="checkbox"/> 検討してみてもよい
			<input type="checkbox"/> あまり参加してみたいとは思わない		

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【クラウドコンピューティング (大阪)】

		n=	%		
全体		(300)	9.3%	26.7%	64.0%
所属大学 (キャンパス) の 所在地域	北海道	(15)	0.0%	26.7%	73.3%
	東北	(26)	0.0%	11.5%	88.5%
	関東(東京以外)	(55)	3.6%	18.2%	78.2%
	関東(東京都内)	(54)	1.9%	5.6%	92.6%
	中部・北陸	(50)	2.0%	38.0%	60.0%
	近畿	(52)	32.7%	44.2%	23.1%
	中国・四国	(19)	21.1%	52.6%	26.3%
	九州・沖縄	(29)	10.3%	27.6%	62.1%
				<input type="checkbox"/> ぜひ参加してみたい	<input type="checkbox"/> 検討してみてもよい
			<input type="checkbox"/> あまり参加してみたいとは思わない		

## 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向(地域別)② ~ セキュリティ(1/2)

次に、「セキュリティ」に関して、各開催地のenPiT講座に対する参加意向を、学生の所属大学地域別に集計した結果を示す。  
(次頁に続く。コメントは次頁参照。)

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【セキュリティ(東京)】

全体		n=	(300)	14.7%	35.0%	50.3%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)		13.3%	53.3%	33.3%
	東北	(26)		7.7%	46.2%	46.2%
	関東(東京以外)	(55)		27.3%	41.8%	30.9%
	関東(東京都内)	(54)		25.9%	44.4%	29.6%
	中部・北陸	(50)		12.0%	22.0%	66.0%
	近畿	(52)		0.0%	17.3%	82.7%
	中国・四国	(19)		5.3%	36.8%	57.9%
	九州・沖縄	(29)		13.8%	37.9%	48.3%

ぜひ参加してみたい  検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【セキュリティ(横浜)】

全体		n=	(300)	8.7%	25.7%	65.7%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)		0.0%	53.3%	46.7%
	東北	(26)		3.8%	26.9%	69.2%
	関東(東京以外)	(55)		20.0%	27.3%	52.7%
	関東(東京都内)	(54)		14.8%	27.8%	57.4%
	中部・北陸	(50)		8.0%	22.0%	70.0%
	近畿	(52)		0.0%	11.5%	88.5%
	中国・四国	(19)		0.0%	36.8%	63.2%
	九州・沖縄	(29)		6.9%	27.6%	65.5%

ぜひ参加してみたい  検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【セキュリティ(石川)】

全体		n=	(300)	2.7%	10.0%	87.3%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)		0.0%	26.7%	73.3%
	東北	(26)		0.0%	3.8%	96.2%
	関東(東京以外)	(55)		0.0%	12.7%	87.3%
	関東(東京都内)	(54)		1.9%	3.7%	94.4%
	中部・北陸	(50)		12.0%	12.0%	76.0%
	近畿	(52)		0.0%	7.7%	92.3%
	中国・四国	(19)		0.0%	15.8%	84.2%
	九州・沖縄	(29)		3.4%	10.3%	86.2%

ぜひ参加してみたい  検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【セキュリティ(奈良)】

全体		n=	(300)	13.3%	84.0%	
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)		0.0%	20.0%	80.0%
	東北	(26)		0.0%	100.0%	
	関東(東京以外)	(55)		1.8%	14.5%	83.6%
	関東(東京都内)	(54)		1.9%	3.7%	94.4%
	中部・北陸	(50)		2.0%	12.0%	86.0%
	近畿	(52)		3.8%	25.0%	71.2%
	中国・四国	(19)		5.3%	21.1%	73.7%
	九州・沖縄	(29)		6.9%	13.8%	79.3%

ぜひ参加してみたい  検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

## ■ 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向(地域別)② ~ セキュリティ(2/2)

(前頁から続く。)

		所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味 【セキュリティ(大阪)】				
		n=	(%)			
所属大学 所在地域 (キャンパス)	全体	(300)	6.7%	24.7%	68.7%	
	北海道	(15)	0.0%	26.7%	73.3%	
	東北	(26)	3.8%	3.8%	92.3%	
	関東(東京以外)	(55)	1.8%	14.5%	83.6%	
	関東(東京都内)	(54)	1.9%	7.4%	90.7%	
	中部・北陸	(50)	2.0%	26.0%	72.0%	
	近畿	(52)	17.3%		53.8%	28.8%
	中国・四国	(19)	15.8%		47.4%	36.8%
	九州・沖縄	(29)	13.8%	24.1%	62.1%	

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

- 「セキュリティ」についても、開催地別の傾向は「クラウドコンピューティング」と同様であるといえる。東京開催の場合は、近畿地方を除く全国各地の学生の参加意向が高く、大阪開催の場合は、近畿以西の地域の学生の参加意向が高めになっている。
- 横浜開催の場合は、東京開催よりも、若干全体的な参加意向が低めに表れていると考えられる。学生の所属大学地域別の傾向は東京開催の場合と同じであり、近畿地方を除く全国各地の学生が、一定の参加意向を示している。
- 「セキュリティ」講座が開催される奈良や石川については、東京開催の場合よりも、やや参加意向が局地的に表れている。石川開催の場合は中部地方、奈良開催の場合は近畿以西の地域の参加意向が高めになっている。

## ■ 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向(地域別)③ ~ 組込みシステム

以下は、「組込みシステム」に関して、各開催地のenPiT講座に対する参加意向を、学生の所属大学地域別に集計した結果である。

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【組込みシステム(東京)】

全体		n=(300)	13.0%	31.0%	56.0%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)	13.3%	40.0%	46.7%
	東北	(26)	7.7%	42.3%	50.0%
	関東(東京以外)	(55)	25.5%	32.7%	41.8%
	関東(東京都内)	(54)	24.1%	40.7%	35.2%
	中部・北陸	(50)	8.0%	22.0%	70.0%
	近畿	(52)	1.9%	11.5%	86.5%
	中国・四国	(19)	10.5%	36.8%	52.6%
	九州・沖縄	(29)	3.4%	41.4%	55.2%

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【組込みシステム(名古屋)】

全体		n=(300)	5.3%	19.0%	75.7%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)	0.0%	26.7%	73.3%
	東北	(26)	7.7%	0.0%	92.3%
	関東(東京以外)	(55)	0.0%	16.4%	83.6%
	関東(東京都内)	(54)	3.7%	9.3%	87.0%
	中部・北陸	(50)	12.0%	34.0%	54.0%
	近畿	(52)	1.9%	17.3%	80.8%
	中国・四国	(19)	21.1%	21.1%	57.9%
	九州・沖縄	(29)	3.4%	31.0%	65.5%

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【組込みシステム(福岡)】

全体		n=(300)	4.0%	15.3%	80.7%
所属大学 所在地域 (キャンパス)の	北海道	(15)	0.0%	26.7%	73.3%
	東北	(26)	0.0%	7.7%	92.3%
	関東(東京以外)	(55)	0.0%	12.7%	87.3%
	関東(東京都内)	(54)	1.9%	5.6%	92.6%
	中部・北陸	(50)	0.0%	10.0%	90.0%
	近畿	(52)	0.0%	9.6%	90.4%
	中国・四国	(19)	5.3%	31.6%	63.2%
	九州・沖縄	(29)	34.5%	48.3%	17.2%

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

- 「組込みシステム」についても、開催地別の傾向は「クラウドコンピューティング」や「セキュリティ」とほぼ同様である。東京開催の場合は、近畿地方を除く全国各地の学生の参加意向が高くなっている。
- 名古屋開催の場合は、中部・北陸地方の学生の参加意向がやや高くなっている。
- 福岡開催の場合は、九州・沖縄地方の学生の参加意向が非常に高い結果となっている。

## ■ 開催地別のenPiT講座に対する学生の参加意向(地域別)④ ~ ビジネスアプリケーション

以下は、「ビジネスアプリケーション」に関して、各開催地のenPiT講座に対する参加意向を、学生の所属大学地域別に集計した結果である。

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【ビジネスアプリケーション (東京)】

全体		n=	(300)	15.0%	39.0%	46.0%
所属大学 (キャンパス)の 所在地域	北海道	(15)	13.3%	33.3%	53.3%	
	東北	(26)	7.7%	53.8%	38.5%	
	関東(東京以外)	(55)	27.3%	38.2%	34.5%	
	関東(東京都内)	(54)	22.2%	51.9%	25.9%	
	中部・北陸	(50)	14.0%	34.0%	52.0%	
	近畿	(52)	3.8%	21.2%	75.0%	
	中国・四国	(19)	10.5%	47.4%	42.1%	
	九州・沖縄	(29)	10.3%	41.4%	48.3%	

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【ビジネスアプリケーション (函館)】

全体		n=	(300)	1.7%	13.0%	85.3%
所属大学 (キャンパス)の 所在地域	北海道	(15)	6.7%	60.0%	33.3%	
	東北	(26)	3.8%	0.0%	96.2%	
	関東(東京以外)	(55)	0.0%	12.7%	87.3%	
	関東(東京都内)	(54)	0.0%	9.3%	90.7%	
	中部・北陸	(50)	0.0%	8.0%	92.0%	
	近畿	(52)	1.9%	7.7%	90.4%	
	中国・四国	(19)	5.3%	31.6%	63.2%	
	九州・沖縄	(29)	3.4%	13.8%	82.8%	

ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

所属大学地域別の enPiT 事業に対する興味  
【ビジネスアプリケーション (筑波)】

全体		n=	(300)	3.7%	17.7%	78.7%
所属大学 (キャンパス)の 所在地域	北海道	(15)	0.0%	26.7%	73.3%	
	東北	(26)	0.0%	11.5%	88.5%	
	関東(東京以外)	(55)	3.6%	18.2%	78.2%	
	関東(東京都内)	(54)	1.9%	18.5%	79.6%	
	中部・北陸	(50)	6.0%	12.0%	82.0%	
	近畿	(52)	1.9%	13.5%	84.6%	
	中国・四国	(19)	15.8%	31.6%	52.6%	
	九州・沖縄	(29)	3.4%	24.1%	72.4%	

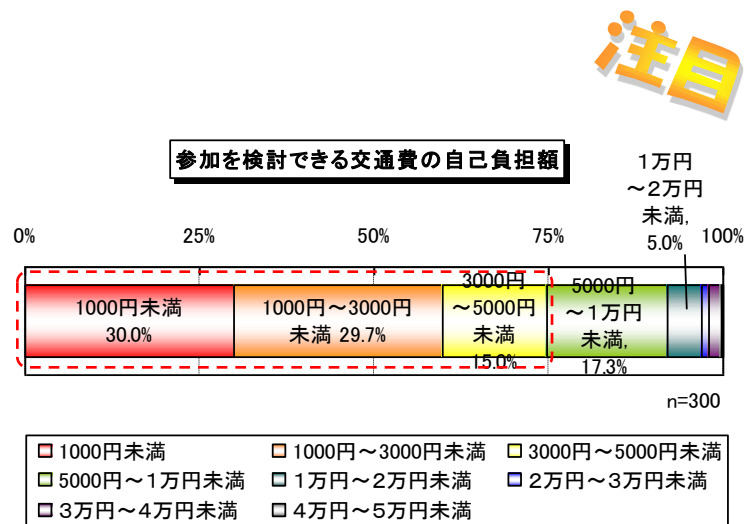
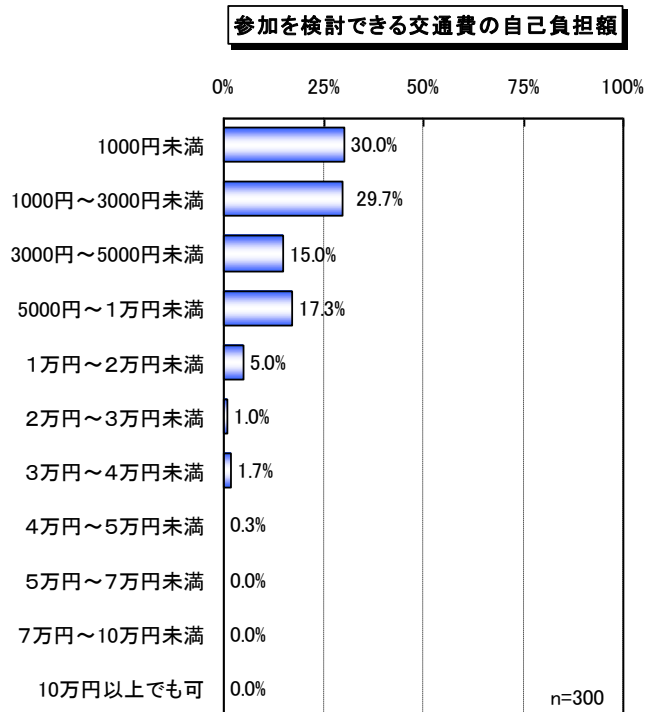
ぜひ参加してみたい       検討してみてもよい  
 あまり参加してみたいとは思わない

- 「ビジネスアプリケーション」についても、**開催地別の傾向は他のテーマとほぼ同様である**。東京開催の場合は、近畿地方を除く全国各地の学生の参加意向が高くなっている。
- 筑波開催の場合は、東京以外の関東圏の学生の参加意向がわずかに他地域より高くなっている(中国・四国地方の学生はサンプル数がやや少ないため、参考値として参照いただくことが望ましい)。
- 函館開催の場合は、北海道地方の学生の参加意向が、他の地域での開催の場合と比較して上昇している。

## ■ 遠方開催の場合に自己負担が可能な交通費の限度額①

学生が遠方で開催されるenPiT講座に参加する場合に、自己負担が可能な交通費の限度額について、左下図のような選択肢を用いて尋ねた。

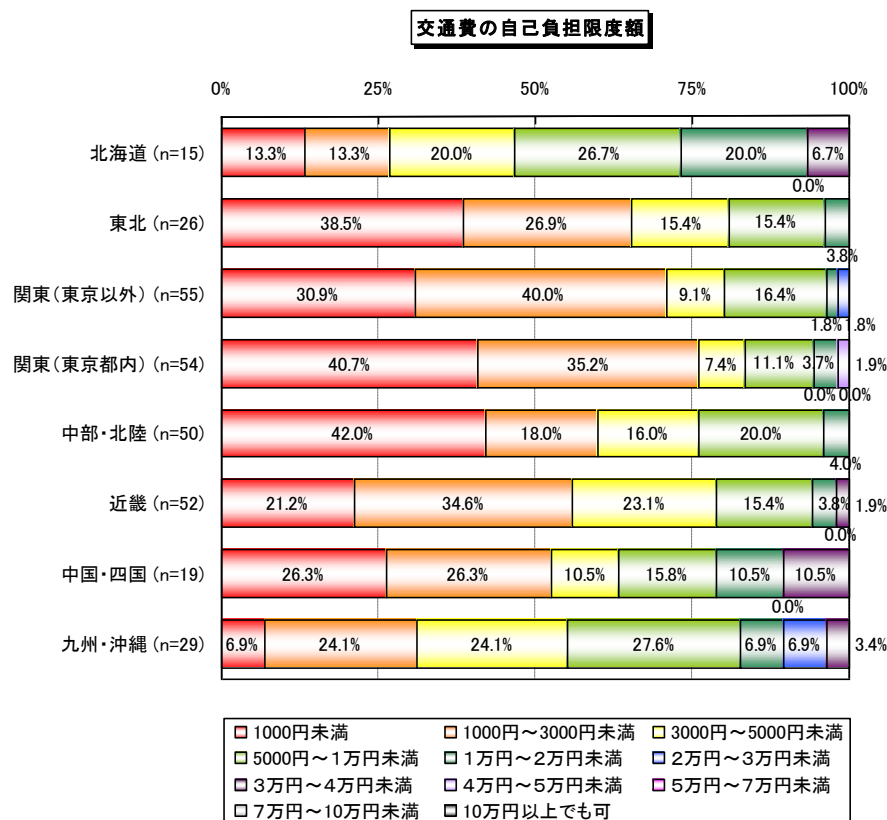
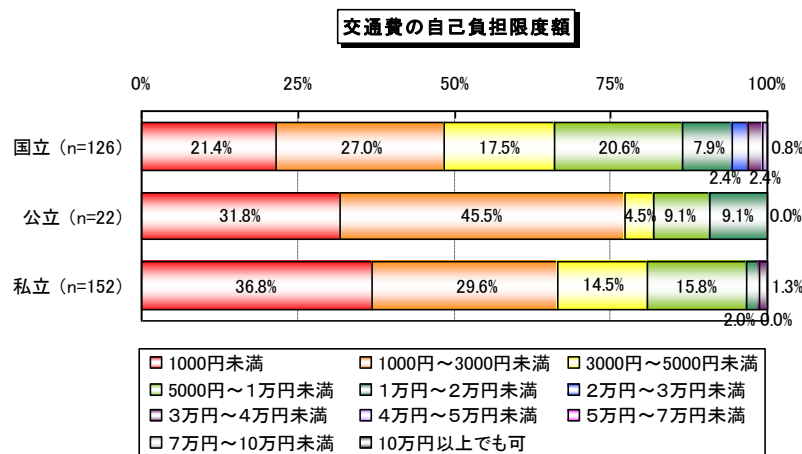
- 右下図からも読み取れるとおり、**3,000円未満という回答が約6割、5,000円未満という回答が約4分の3**に達している。



## ■ 遠方開催の場合に自己負担が可能な交通費の限度額②

交通費の負担限度額について、所属大学の国公立別、地域別に集計すると、下図のような結果となった。

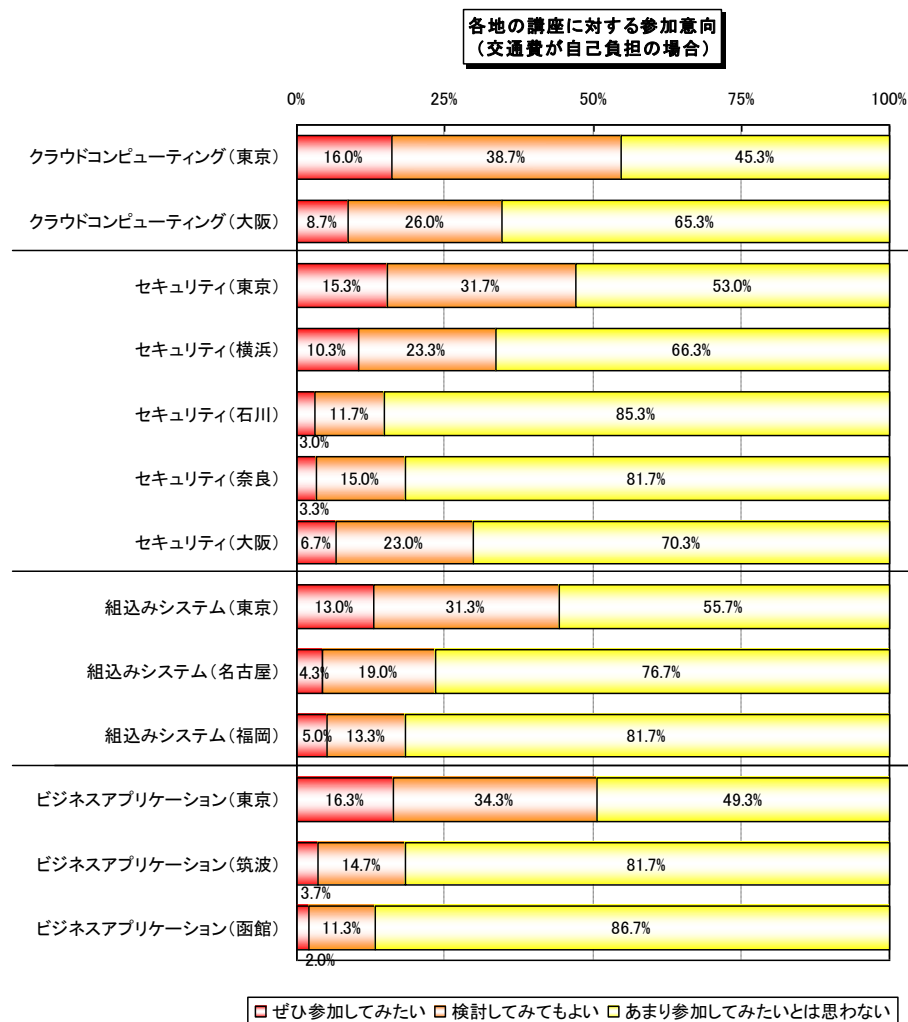
- 私立大学よりも**国立大学の学生の方が、高い自己負担額を回答する傾向にある。**
- また、地域別にみると、関東のほか、中部・東北地方の学生は、自己負担額についてもほぼ同様の水準で回答しているのに対して、**北海道や九州・沖縄の学生は、他の地域よりもやや高めの自己負担額を回答している。**



## 交通費が自己負担となった場合の各講座への参加意向

今回の調査では、交通費、宿泊費、受講料等がすべて無料であるという条件で尋ねたp.16の設問に対して、「交通費」のみが自己負担となった場合の参加意向を尋ねた。

- 今回、この設問への回答結果は、すべて無料であるという条件のp.16の回答結果とほとんど変化がないという結果になった。
- おそらく「ぜひ参加したい」と回答した意欲的な一部の学生は、交通費を自己負担としてでも、enPiT講座を受講したいと考えているものと推測される。
- しかし、p.24の限度額についての回答結果から読み取れるとおり、多くの学生の自己負担限度額は非常に限られているため、より多くの学生の参加を実現する段階においては、自己負担額が現実的に大きな課題となる可能性も十分に考えられる。



## ■ (参考) 回答学生の所属大学

今回の調査では、回答任意の設問として、回答者の所属大学を尋ねた。参考までに、その回答結果を示す。

- 茨城大学
- 岩手大学
- 大阪工業大学
- 大阪産業大学
- 大阪大学
- 大阪電気通信大学
- 大阪府立大学
- 岡山大学
- 神奈川工科大学
- 神奈川大学
- 金沢工業大学
- 香川大学
- 関西学院大学
- 関西大学
- 北見工業大学
- 岐阜大学
- 九州工業大学
- 九州大学
- 京都工芸繊維大学
- 京都大学
- 近畿大学
- 熊本大学
- 慶應義塾大学
- 工学院大学
- 高知工科大学
- 甲南大学
- 神戸大学
- 公立はこだて未来大学
- 佐賀大学
- 静岡大学
- 芝浦工業大学
- 島根大学
- 首都大学東京
- 上智大学
- 湘南工科大学
- 信州大学
- 諏訪東京理科大学
- 創価大学
- 大同大学
- 玉川大学
- 千葉工業大学
- 中京大学
- 筑波大学
- 津田塾大学
- 電気通信大学
- 東海大学
- 東京学芸大学
- 東京工科大学
- 東京工業大学
- 東京女子大学
- 東京大学
- 東京電機大学
- 東京都市大学
- 東京農工大学
- 東京理科大学
- 同志社大学
- 東北学院大学
- 東北工業大学
- 東北大学
- 東洋大学
- 徳島大学
- 鳥取大学
- 長岡技術科学大学
- 名古屋工業大学
- 名古屋大学
- 新潟大学
- 日本大学
- 兵庫県立大学
- 福井大学
- 福岡工業大学
- 法政大学
- 北陸先端科学技術大学院大学
- 北海学園大学
- 北海道工業大学
- 室蘭工業大学
- 明治大学
- 横浜国立大学
- 立命館アジア太平洋大学
- 立命館大学
- 琉球大学
- 早稲田大学

(50音順)